

第二章 地 質

豊津町に関連する地域の地質は、福岡県の土地分類基本調査による、五万分の一「行橋・荻島」、「後藤寺」、「中津」の各図幅の表層地質図が刊行されている。

今川、祓川両河川の流域は、基本的には変成岩類とそれに貫入する白亜紀花崗岩類が基盤岩として存在し、それを南方の英彦山地、犬ヶ岳・求菩提山地から供給された火山岩が覆う。一方、花崗岩類からなる丘陵地北端部以北の行橋平野には、第四紀の砂礫層が分布する（第2図）。

変成岩類は、三郡変成帯に属し、今川の中流

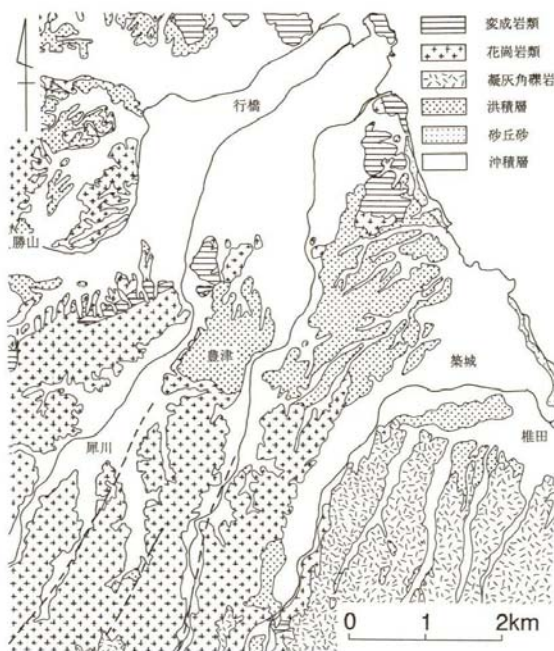


第1図 豊津町の位置

硬であるため、峡谷部をなしている。

白亜紀花崗岩類は、「田川」図幅の中央部を南北に走る湯山断層以東に広く分布する。これは真崎、添田、油須原各岩体に分けられている(唐木田、一九八五)。一般的に、よく風化し、「マサ」状になっている。

火山岩類は、いわゆる耶馬溪層下部層にあたり、凝灰角礫岩とその上位にのる輝石安山岩熔岩からなる。今川と祓川の間の山地には、広く分布するが、蔵持山地がその北端をなす。祓川と城井川の間の山地では伝



第2図 豊津町の地質

(福岡県、1970a、-b、1971)

部を挟んで、添田町野田から東北東へ延び、油木を経て犢牛岳(六九一メートル)の北方に達する地域に主として分布する。また、城井川流域の伝法寺付近にも小分布がみられる。この変成岩類は田川変成岩類と呼ばれており、千枚岩・黒色砂質準片岩・雲母片岩が主で、一部にチャート・石灰岩・緑色岩を挟んでいる。これらはいずれも花崗岩類の貫入を受け、ホルンフェルス化を受けている。特に伝法寺に分布する変成岩類はホルンフェルス化が進んで、堅

法寺西方まで、火山岩類からなる山地が分布する。

豊津町域には花崗岩類とそれを基盤とする扇状地礫層、段丘砂礫層が分布するのみで、河川沿いには沖積層が分布する。